

優秀賞

おにやんまのうかをみて

茨城県 日立市立助川小学校一年 白土 詩織

ことし五がつ、にちようびのあさのことです。いえのにわにでてみると、

「おにやんまがいるよ。」

と、おとうさんがゆびをさしたさきには、うかしたばかりのおにやんまがいました。

「うごかないよ。」

はねはとじたままで、ぜんぜんうごかないので、わたしはともしんぱいでした。

「これからはねをかわかすんだよ。」

と、おしえてもらい、わたしはおにやんまがとぶまで、みまもることにしました。十ぶん、三十ぶん、一じかんたっても、うごかないままです。

すこしおくのほうのくさきにめをむけると、おなじようなすがたをしたおにやんまが、もう一ぴきいたのです。

「もう一ぴきいた。」

わたしはおどろいて、みんなにおしえにいきました。そして、二ひきがぶじにとべるように、しずかにみまもることにしました。

おひるごはんをいそいでたべおえ、またにわへおにやんまをみにいくと、さいしょにみつけたほうのおにやんまがはねをひろげていました。でもまだ、うごくようすはありませんでした。

しばらくみると、ぴくぴくとはねをうごかしはじめました。うごかしてとまり、またうごかしてとまるのをなんどもくりかえしたあと、ばたばたとはねのうごきがおおきくなってきました。

「もうちょっとだよ。もうちょっとだよ。」

わたしはおとうとといっしょにおうえんしていると、

「とんだっ。」

おにやんまはそらたかくとびたちました。

わたしは、なんともいえないうれしさでいっぱいでした。

もう一ぴきのおにやんまのようすをみにいくと、まだうごくようすがありませんでした。

ときどきようすをみにいきますが、へんかはありません。そうしてよるになりました。

つぎのあさ、にわがすこしぬれていて、よるのうちにあめがふったようでした。おにやんまはとべたのか、ふあんになってみにいくと、じめんにおちていました。

「しぜんのなかでいきっていくのは、きびしいことなんだよ。」

と、おとうさんがいいました。わたしは、がっこうへいくまえに、ちからつきたおにやんまを、つちにうめました。

おにやんまのうかをみて、いきものがいきていることは、あたりまえではないことなのだとおもいました。たくさんのきせきがかさなって、いきていけるのだとおもいました。

それは、わたしたちもおなじです。ごはんをたべられること、がっこうへいけること、おともだちとなかよくあそべること、そのぜんぶがきせきのかさ

なりなのだとおもいます。

